

実験動物の品質管理と検疫体制のお願い

実験動物の品質管理について

- 実験動物は生産施設での定期的微生物モニタリングによって、供給される動物の品質基準を証明しています。
- 微生物モニタリングによって、生産施設の品質管理体制の信頼性を保証することができます。

VS

- 一方、同モニタリング検査成績が出荷時の動物の陰性を保証するものではありません。
- 初期の感染を検出することは困難で、感染症発生初期に摘発を免れて出荷されてしまうことが考えられます。

⇒ 微生物モニタリング検査の限界

例：生産コロニーで20%の動物が感染している場合、感染症を99%の確立で検出するには、21匹の動物を用いてモニタリングを実施する必要があります。

“実験動物としてのマウス・ラットの感染症対策と予防” アドスリー（2011年）

検疫の重要性

- 感染拡大を防ぐ最も有効な手段は各施設での検疫です。納品検収後は、別の場所で一定期間隔離飼育し検疫を経て実験に使用して頂くようお願いします。

